

山陰の古代遺跡

改訂版

～律令国家と風土記の時代～

山陰の 古代遺跡



隠岐国駅鈴



上淀廃寺跡出土の彩色仏教壁画「神将」

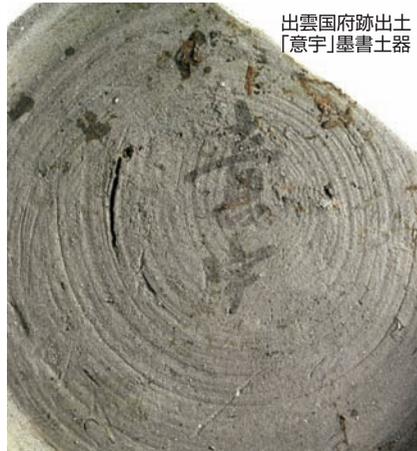


出雲国府跡と茶白山(神名樋野)

大御堂廃寺跡出土鬼瓦



法華寺畑遺跡復元西門



出雲国府跡出土「意宇」墨書土器

山陰の古代遺跡

—律令国家と風土記の時代—

はじめに

7世紀～8世紀の飛鳥時代から奈良時代にかけては、我が国において古代国家が完成する時期にあたります。日本の古代国家は、中国から持ち込まれた法体系「律令」を国家支配の根幹にすえ、都にいる天皇にすべての権力が集約される中央集権国家でした。そして地方においては国ごとの細かい行政の仕組みが張り巡らされています。同じく大陸から伝わった仏教文化も急激に全国に広まり、国家仏教としての様相を見せるようになります。やがて、平安時代になると、貴族文化の華やかさとは対照的に、律令国家や仏教にも変容がみられ、次第に貴族に替わって武士が支配する時代へと変化していきます。

鳥取・島根両県の役所や寺院・信仰などの古代遺跡を訪ね、風土記時代の山陰に思いをはせてみましょう。

年表

時代区分	元号等(西暦)	主な出来事
古墳時代	欽明天皇13年(552)	仏教伝来(あるいは538年)
飛鳥(白鳳)時代	崇峻天皇元年(588) 大化元年(645) 天武天皇14年(685) 大宝元年(701)	飛鳥寺(法興寺)造営開始 大化の改新(乙巳の変) 仏教興隆の詔 大宝律令制定
奈良時代	和銅3年(710) 天平5年(733) 天平13年(741)	平城京遷都 『出雲国風土記』完成 国分寺造立の詔
平安時代	延暦13年(794) 寛平6年(894)	平安京遷都 遣唐使を廃止
鎌倉時代	建久3年(1192)	源頼朝、征夷大将軍となる



岡益の石堂

目次	石見地域の古代遺跡	02
	出雲地域の古代遺跡	08
	隠岐地域の古代遺跡	19
	山陰の遺跡分布MAP	22
	西伯耆地域の古代遺跡	24
	東伯耆地域の古代遺跡	29
	因幡地域の古代遺跡	37
	古代ミニ辞典	45

古代仏教と神々

6世紀に我が国に伝来したとされる仏教は、畿内を中心とする飛鳥寺などの創建にはじまり、7世紀後半以降になると上淀廃寺や山代郷北新造院など、地方豪族の氏寺の建立が全国的な広がりを見せます。やがて奈良時代になると、鎮護国家の施策に基づく「国の華」国分寺・国分尼寺の建立など、山陰地方でも推定地も含めて55ヶ寺(鳥取22・島根33)の古代寺院が知られています。平安時代になると大山寺など密教系の山岳仏教寺院、三徳山(みとくさん)三仏寺や浮浪山鱈淵寺(かくえんじ)に代表される修験道の行場など、今日まで法灯を伝える寺院が出現し、末法思想に基づく伯耆一宮経塚などの経塚の造営も盛んになってきます。

また、こうした仏教の興隆に対して、日本古来の神々に対する信仰も徐々に形を整えていきます。平安時代の延喜式神名帳に記載のある、いわゆる式内社として名前が上がるのは、因幡50、伯耆6、出雲187、石見34、隠岐16座の神社で、出雲大社に代表される神々の国出雲が飛びぬけているのがわかります。

律令国家と地方の仕組み

律令国家において、全国は五畿七道に分けられ、さらに国ごとに国-郡(評)-郷(里)という、細かい行政単位が設けられていました。山陰道は東は丹波国(京都・兵庫)から石見国まで8ヶ国からなり、鳥取県は、因幡・伯耆国、島根県は出雲・石見国そして隠岐国が相当します。これらの国々は駅馬や宿泊所を備えた中継地である駅家(うまや)を点々と配した官道で都と結ばれていました。

それぞれの国や郡で民衆の直接支配にあたる役割を担っていたのが、国府や郡衙(郡家)といった官衙(役所)でした。官衙では戸籍の管理や租税の徴収といった、地域における実際の行政実務が執り行われました。また、都の情報の伝達も、こうした地方官衙を介して行われたのです。

貧窮問答歌と風土記にみる古代社会

国司として伯耆国府に赴任したこともある山上憶良(やまのうえのおくら)は、生活に苦しむ農民の姿を「貧窮問答歌」として『万葉集』に歌っています。律令制のもと役所が整備され、絢爛たる寺院が建立された我が国の古代国家を支えた名もなき人々、その暮らしや社会の様子は観音堂遺跡や向野遺跡などの集落遺跡や女夫岩遺跡のような祭祀遺跡、さらに西山ノ後遺跡の胞衣壺などからうかがうことができます。また、奈良時代に国ごとに作成された地誌である風土記には地方の国々の実像が詳細に描かれており、全国で唯一完存する『出雲国風土記』には、郡郷名の由来、産物、地味地形、伝承など、奈良時代の国のありさまが活写されています。

石見地域の古代遺跡

石見地域は湾岸線が長く、そのためか日本海を通じての交易が盛んであったようです。遺跡からは様々な地域から運ばれた品物が発見されています。また、古文書には古代から鉱山の開発が行われていたことが記されています。このように重要な地域ですが、不明なことも多く、未だ謎の多い地域です。



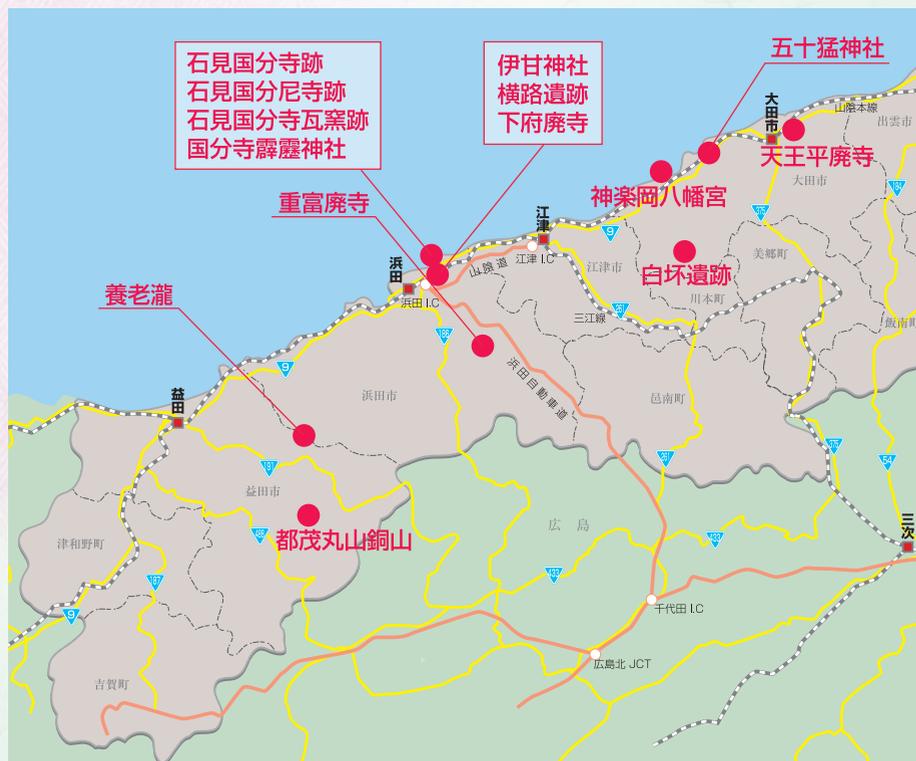
白坏遺跡(大田市)出土木筒

多量の木筒が出土しました。その中には掛算の九九を練習した木筒もありました。



昭和40年代の都茂丸山銅山。現在建物はありません。

『続日本後紀』の承和3年(836)と『日本三代実録』の元慶5年(881)の記事に丸山の銅山開発に関する記載があります。



てんのうびらはいじ 天王平廃寺 [国道沿いの塔心礎]

市指定文化財

大田市

奈良時代の寺跡で、塔心礎(塔の心柱の礎石)や、金堂と考えられる建物跡が発掘されました。塔心礎の中心には四角形の舍利孔があります。また、ここで発見された瓦の様子は、石見一円に広がっています。



天王平廃寺で発見された軒丸瓦



【交通】JR大田市駅からバス15分
農業大学校前下車 徒歩5分



しげとみはいじ 重富廃寺 [瓦が語る地域交流]

浜田市

奈良時代の寺跡で、特徴的な軒丸瓦が発見されました。この場所から100m離れた場所でのこの瓦を焼いた窯跡が見つかりました。この瓦と似た瓦が石川県でも見つかり、両地域の繋がりがうかがわれます。



重富廃寺で発見された軒丸瓦



※旭ふるさと歴史公園資料館には、関係資料が展示されています。



【交通】浜田自動車道高速バス
「重富バスストップ」下車 徒歩5分



市史跡

ようろうのたき 養老瀧 [瀧の水はどんな味?] 益田市



【交通】道の駅「サンエイト美都」から車で約7分 徒歩10分

仁寿4年(854)に、醴泉が湧き出て3日で涸れたという記述が『日本文徳天皇実録』にあります。

どぶろくのような味の水が大岩の間から湧き出したので朝廷に献上したところ、朝廷は喜び元号を斉衡に改元したと伝わります。



浜田市国分町と下府町の史跡

浜田市国分町と下府町には、石見国分寺跡や下府廃寺など4か所の史跡があります。また、交易で栄えた大きな集落遺跡もいくつか発見されています。

この地域は古代から中世にかけて、石見国の中心地の一つであったことは間違いありません。



県史跡

いわみこくぶんじあと 石見国分寺跡 [土中より輝く誕生仏像出現]

浜田市

【交通】JR久代駅から徒歩25分

石見国分寺跡は現在の浄土真宗金蔵寺(こんぞうじ)境内にあります。

礎石の一部が残っており、境内東南隅の土の盛り上がった所は塔が建っていたと推定されます。

発掘調査では、銅製の誕生仏が発見されました。



※浜田市教育委員会蔵

県史跡

いわみこくぶんじあと 石見国分尼寺跡 [尼寺にも誕生仏あり]

浜田市

【交通】JR久代駅から徒歩20分

「比丘尼所」「尼所」などの地名や、瓦が多く見つかったことから、石見国分尼寺があったと考えられています。

ここでも、金銅製の誕生仏が伝えられています。

国分寺・国分尼寺両方から誕生仏が発見されたのは石見国だけです。



※個人蔵

県史跡

いわみこくぶんじかわらかまあと 石見国分寺瓦窯跡 [寺院あるところに瓦工房あり]

浜田市

【交通】JR久代駅から徒歩30分

窯跡は石見国分寺跡の西側に隣接し、石見国分寺跡からは南西に約450m離れた丘陵地にあります。窯跡からは出土した瓦は朝鮮半島の影響を受けたものとして注目されています。石見国分寺へ瓦を供給した重要な遺跡です。



石見国分寺瓦窯跡出土の軒平瓦



県史跡

しもこうはいじ 下府廃寺 [石見最古の中核寺院]

浜田市

【交通】JR下府駅から徒歩20分

下府廃寺は、県内最古級の寺院です。

調査で、寺を建てるに当たり、山を削り谷を埋める大工事を行い、寺域を造成したことがわかりました。

花崗岩製の塔心礎には、方形柱座中央に円柱孔があり、さらにその中央に直径21cm、深さ12cmの舍利孔が設けられています。



下府廃寺で発見された軒丸瓦

よころいせき 横路遺跡 [交易物語る貿易陶磁]

浜田市

【交通】JR下府駅から徒歩15分
※地図は上記、下府廃寺の地図を参照

平安時代から鎌倉時代の建物跡が多数発見されました。当時は貴重だった貿易陶磁器が多数見つかり、日本海交易の隆盛をうかがえます。また、明治5年に起きた浜田地震の痕跡も発見されました。



石見国府所在地の謎

石見国は「安濃」(あの)、「邇摩」(にま)、「邑知」(おおち)、「那賀」(なか)、「美濃」(みの)、「鹿足」(かのあし)の六郡に分かれていました。『和名抄』という平安時代の辞書には、石見国府は現在の浜田市にあると記載されています。しかし具体的な位置についての記載がないため、国府の位置については、浜田市下府町とする説、浜田市上府町とする説があります。また大田市仁摩町仁万から浜田市下府町に移ったとする説、江津市二宮地区から下府町に移ったとする説など諸説があります。石見国府を求めて様々な場所で発掘調査が行われてきましたが、まだ明確な遺構は確認されていません。ここでは、石見国分寺の守護神と伝えられる「国分寺霹靂神社」など、国府に関連すると考えられる神社を紹介しします。

※論社とは、式内社の後裔とされる神社が複数存在する場合に、その候補となる神社のことを言います。

石見国府推定地の関連地図



いそたけじんじゃ 五十猛神社

大田市

【交通】JR五十猛駅から徒歩10分

国分寺霹靂神社の論社の一つが合祀されています。五十猛命は林業の神様です。



かぐらおかはちまんぐう 神楽岡八幡宮

大田市

【交通】JR仁万駅から徒歩10分

神楽岡八幡宮の東にある明神山にあった国分寺霹靂神社の論社が廃れ、合祀されました。



こくぶんじかんとけじんじゃ 国分寺霹靂神社

浜田市

【交通】JR久代駅から徒歩25分

国分寺霹靂神社の論社の一つです。陶製の狛犬が出迎えてくれます。



いかんじんじゃ 伊甘神社

浜田市

【交通】JR下府駅から徒歩10分

山陰道の駅家と同じ名称であり、「印鑰神社」など国府を想起させる神社が合祀されています。



Information

行ってみよう資料館

浜田市浜田郷土資料館



石見国分寺、石見国分尼寺、石見国分寺瓦窯跡、横路遺跡の遺物を見ることができます。

【開館時間】9:00~17:00【電話】0855-23-6453
【入館料】無料【休館日】月(祝日の場合は翌日)
【アクセス】JR浜田駅より徒歩10分



出雲の古代寺院

奈良時代の寺院は古墳にかわる豪族たちの新たな権力のシンボルとして盛んに作られました。『出雲国風土記』には、「教昊寺」と10か所の「新造院」の記述があります。「新造院」とはお寺のことと考えられますが、その所在地については諸説があります。

市指定文化財

きょうこうじあと 教昊寺跡

安来市

【風土記で唯一寺名が書かれている寺院】

【交通】山陰道安来ICから車で12分
※地図はP12の舎人郷正倉跡の地図を参照

通称「白鳥ロード」沿いにある遺跡で、多くの瓦や土器が出土しています。風土記に五層と書かれた塔の心礎は現在神社祠の基礎として使用されています。



県史跡

やましろうみなみしんぞういんあと 山代郷南新造院跡

松江市

【出雲臣弟山が建てた寺】

【交通】八雲立つ風土記の丘から自転車5分
※地図はP14の八雲立つ風土記の丘の地図を参照

茶臼山の南麓にある寺院跡です。風土記には、後に出雲国造になる出雲臣弟山(いずものおみおとやま)が飯石郡の郡司だったときに建てた寺と書かれています。



国史跡

やましろうきたしんぞういんあと 山代郷北新造院跡【発掘調査で全貌が明らかにされた寺院】

松江市

【交通】ガイダンス山代の郷から自転車5分
※地図はP14の八雲立つ風土記の丘の地図を参照

風土記には日置君目烈(へぎのきみめつら)が建てた寺と記されています。

調査の結果、仏像を安置する須弥壇をもつ金堂や塔、講堂などが確認され、相輪の部材など珍しい遺物も多数見つかりました。

整備されて見学しやすくなっています。



発掘された金堂

やまくにごうしんぞういんあと 山国郷新造院跡

安来市

【日置部の寺】

【交通】山陰道安来ICから車で20分

風土記には三層の塔が建っていたと書かれています。付近には瓦窯跡も見つかっています。



てんじびらはいじ 天寺平廃寺

【山上の寺院】

出雲市

【交通】阿宮公民館から徒歩50分

標高200mの山上の寺で礎石が残っています。奈良時代後期から平安時代前期の瓦が見つかっています。



さいさいごうはいじ 西郷廃寺

出雲市

【出雲臣が建てた寺】

【交通】山陰道斐川ICから車で20分

楯縫郡の郡司出雲臣大田が建てた寺と推定されています。



市史跡

かんどじけいだいはいじ 神門寺境内廃寺

【特異な瓦出土】

出雲市

【交通】JR出雲市駅から徒歩25分

水切り瓦と呼ばれる特異な瓦が出土しています。風土記のどの新造院にあたるかは諸説あります。



ひいごうしんぞういんあと 斐伊郷新造院跡

【交通】JR木次駅から徒歩3分

【礎石が出土 風土記時代出雲最大級の寺院か?】

市指定文化財

雲南市

木次駅構内から塔の礎石が発見され、現在の場所に移されています。風土記には大原郡の郡司である勝部臣虫麻呂(すぐりべのおみむしまろ)が建てた寺で、僧が5人いたと書かれており、大規模な寺であったことがうかがえます。



古代の役所

役所は古代においても当時の行政・政治の中心地でした。現在の県庁や市町村役場のように、行政区分に対応して、国庁や郡庁などが置かれました。

こしほんごういせき 古志本郷遺跡 [神門郡家か?]

出雲市

【交通】山陰道
斐川ICから車で25分

斐伊川放水路建設に伴う発掘調査で、コ字形に建物を配置した大形建物群が発見されました。建物の特徴から神門郡の郡庁と推定されています。現在は建物遺構の一部が堤防の下に保存されています。



こりがきいせき 郡垣遺跡 [移転前の旧大原郡家か?]

雲南市

【交通】JR木次線幡屋駅
から徒歩5分

平成18年度以降の発掘調査で、コ字形に計画的に配置された大型掘立柱建物群が見つかりました。この地は、風土記に記載された「斐伊村」へ移転する前の「旧大原郡家」の推定地として古くから知られており、建物群は旧郡家の「郡庁」(中心施設)であると考えられています。



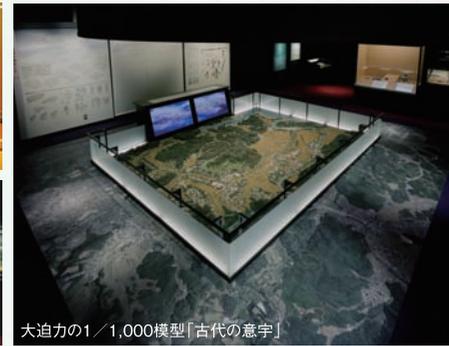
島根県立八雲立つ風土記の丘展示学習館

～古代の遺物を一堂に展示～

意宇平野を一望できる小高い丘の上に展示学習館は建っていて、地内各所から出土した遺物等を多数展示しています。なかでも圧巻は奈良時代の意宇平野の1/1000模型で、調査成果に基づいた精巧な復元は、一見の価値があります。また併設するガイダンス棟には地内の航空写真と史跡検索システムを設置しています。お目当ての史跡を調べて、古代探訪のサイクリングをしてみたいかがでしょうか。



Setsuo Hiroasaki 提供



大迫力の1/1,000模型「古代の意宇」

Setsuo Hiroasaki 提供



史跡検索システム



Information

行ってみよう資料館

島根県立八雲立つ風土記の丘展示学習館

【電話】0852-23-2485
 【ホームページ】<http://www.yakumotatu-fudokinooka.jp>
 【開館時間】9:00～17:00(入館は16:30まで)
 【休館日】毎週火曜日(祝日の場合は翌日)
 【入館料】一般 200円(20名以上団体160円)
 大学生 100円(20名以上団体80円)
 小・中・高生 無料
 【交通】山陰道松江東ICから車で5分



うしろだにいせき 後谷遺跡 [巨大な礎石建物・出雲郡正倉か?]

出雲市

【交通】
山陰道斐川ICから車で8分

風土記に神名火山と記載された仏経山の麓に位置する遺跡で、総柱の礎石建物の周辺から多量の焼米が発見され、出雲郡家の正倉と考えられています。



とねりごうしょうそうあと 舎人郷正倉跡 [税を納めた倉]

安来市

【交通】山陰道安来ICから車で12分

舎人郷は現在の安来市月坂、折坂、野方町一帯と推定されます。発掘調査が行われていないので詳細は不明です。



あおきいせき 青木遺跡 [役所?神社?居館?]

出雲市

【交通】一畑電車大寺駅から徒歩5分
※地図はP18の鰐淵寺の地図を参照

大寺駅のすぐ近くに位置し、神社状の建物や礎石建物、1000点を超える墨書土器が見つかりました。遺跡の性格については役所の出先説など様々な説があります。



古代出雲の中核 八雲立つ風土記の丘

八雲立つ風土記の丘は、出雲国府の置かれた古代出雲の中心地で、国府以外にも国分寺や国分尼寺とそれに伴う瓦窯跡、正倉跡など古代出雲の中核となる遺跡が集中しています。また「条里」と呼ばれる古代の地割がよく残っています。地内一円の散策には、八雲立つ風土記の丘展示学習館等にあるレンタサイクルを利用すると便利です。



出雲国府は、茶臼山と意宇川に挟まれた意宇平野につくられました。意宇平野は条里と呼ばれる基盤目状の区画がよく残っています。

国史跡

いずもこくふあと 出雲国府跡 [古代出雲国の行政の中心]

松江市

【交通】八雲立つ風土記の丘展示学習館からレンタサイクルで10分
※地図は上記、八雲立つ風土記の丘の地図を参照

国府は国の行政の中心地で今の県庁のような施設です。出雲国府跡は、松江市大草町に位置し、周辺の条里制遺構とともに約42%が国の史跡に指定されています。出雲国府の場所は長らく不明でしたが、昭和43～45年の発掘調査により、整然と並ぶ大規模な建物跡が多数見つかると、この場所が出雲国府跡であることが確定しました。現在は政庁付近が整備されています。また発掘調査も継続して行われており、国司の住んでいた館などが見つかるなど、多くの貴重な成果が得られています。



発掘された国司館
2棟の大形建物を中心とする建物群で、「館」の字が書かれた土器や漆紙文書のほか、鍛冶や玉類など手工業生産関係の遺物も出土しています。



「意宇杜」推定地の1つ「客の森」
風土記には、国引きを終えた八束水臣津野命*1がこの地に杖を立てて「おゑ」と叫んだことが、意宇の地名起源であったと伝えられています。
※1:八束水臣津野命(やつかみづおみづぬのみこと) ※2:十字街(ちまた) ※3:柱北道(きたにまがれるみち)



「十字街」推定地
国府の北には東西に山陰道が走り、また国府から北へ向かう柱北道*3と呼ばれる道が走っていました。その交差点が十字街です。

国史跡

いずもこくぶんじあと 出雲国分寺跡 [出雲仏教の中心 鎮護国家の象徴]

松江市

【交通】展示学習館からレンタサイクルで15分
※左ページ、八雲立つ風土記の丘の地図を参照

国分寺、国分尼寺は『出雲国風土記』完成8年後の天平13年(741)に、聖武天皇が国を安んずることを目的に各国に建立を命じた寺院です。発掘調査では、金堂や講堂などの建物跡が確認されました。



出土した軒丸瓦と軒平瓦



2町四方(約4万㎡)の範囲に南北に建物が配置されています。金堂を講堂・中門・回廊で囲み、北に僧房、南東に塔があったと推定されています。

国史跡

やましろうしょうそうあと 山代郷正倉跡 [米を納めた巨大な倉庫群]

松江市

【交通】展示学習館からレンタサイクルで15分
※左ページ、八雲立つ風土記の丘の地図を参照

松江市大庭町の通称大庭十字路の北側に位置する遺跡で、大型の建物跡が多数見つかっています。米を納めた建物は床下部にも柱が立つ高床式の総柱建物で、巨大な重量に耐え得る構造であったことがうかがえます。



発掘された巨大倉庫跡
柱穴は1辺1m近くある巨大なものです。付近からは焼米が多数見つかっています。

県史跡

いずもこくぶんじかわらかまあと 出雲国分寺瓦窯跡

松江市

【交通】展示学習館からレンタサイクルで15分
※左ページ、八雲立つ風土記の丘の地図を参照

出雲国分寺跡の東にある瓦窯跡です。窯跡は3基が確認されています。古い瓦のデザインは、当時の朝鮮半島にあった新羅の瓦とよく似ていることが指摘されています。



県史跡

やましろうみなみしんぞういんかわらかまあと 山代郷南新造院瓦窯跡

松江市

【交通】展示学習館からレンタサイクルで8分
※左ページ、八雲立つ風土記の丘の地図を参照

山代郷南新造院跡の近くにある瓦窯跡です。ここで作られた瓦で新造院の屋根が飾られました。



火葬墓の登場 **古代の墳墓**

古墳時代の有力者は競って大きな塚のある墓、いわゆる「古墳」を築造していました。ところが、古代になると、大きな塚をもつ墓はほとんど見られなくなりました。一方で大陸からは「火葬」という新しい風習が持ち込まれ、埋葬の方法もかなり変化しました。

県史跡

こさかこふん **小坂古墳** [古墳の中に石櫃]

出雲市

交通 山陰道斐川ICから車で25分

6世紀後半に造られた古墳ですが、約100年後の8世紀に石室の中に火葬骨を入れた石櫃を持ち込んでいます。石櫃の蓋は失われており、身は長さ1m、幅60cm、厚さ50cmの直方体です。石櫃の中央には直径28cmの孔がありますが、この孔には銅製骨蔵器を納めていたと思われます。副葬品と思われる「蕨手刀」という柄頭が渦をまく刀が見つかっています。



県史跡

こうみょうじ3ごうぼ **光明寺3号墓** [塚から現れた石櫃]

出雲市

※現地の見学はできません。

一辺8m・高さ1mの方形の塚から石櫃が発見されました。石櫃は一辺75cmの立方体で、1人分の人骨が収められていました。人骨を分析すると、葬られた人は40歳代以降の男性であることがわかりました。この墓の時期は7世紀の終わりから8世紀初めと考えられており、日本に火葬の風習が取り入れられた頃の墓といえます。



国史跡

出雲国風土記登場地 - 伝説の地・地名を探る② -

いずもたまつくりあと **出雲玉作跡** [御沐の忌玉作る]

松江市

交通 山陰道 玉湯ICから車で7分

松江市玉湯町・忌部町は玉作りの中心地で、古代の玉作り遺跡も見つかっています。史跡公園に隣接する出雲玉作資料館では出土品が展示してあります。



飯石郡・仁多郡の古代遺跡

ばばいせき **馬場遺跡** [壮麗な副葬品]

雲南市

交通 中国横断自動車道 三刀屋ICから車で2分

奈良時代の建物跡や平安時代の墓などが発見されました。墓からは太刀、鉞、毛抜き、火打ち金、ヘラで「黒田」と書かれた土器などが出土しました。釘を使って丁寧に棺を作る点などが京都の墓に似ていることから、都の情報に通じた有力者の墓と考えられています。出土品の一部は島根県立古代出雲歴史博物館で見ることができます。



かねつきめいせき **カネツキ免遺跡** [特殊な遺物が大量に出土]

Information
行ってみよう資料館

奥出雲多根自然史博物館

奥出雲町
交通 道の駅「酒蔵奥出雲交流館」から車で8分

装飾付き大形円面硯、「大」「上備」「伴」の字が書かれた土器、人形・曲物・箸などの木製品、製塩土器などが出土しました。出土遺物や付近に「大領原」「内裏原」などの地名があることなどから、仁多郡家と関連する遺跡と考えられます。これらの遺物は奥出雲多根自然史博物館で見ることができます。



仁多郡奥出雲町佐白236-1
【開館時間】9:30~17:00
【電話】0854-54-0003
【休館日】月(祝日の場合は翌日)
【交通】中国横断自動車道 三刀屋ICから車で30分



たかだはいじ **高田廃寺** [謎多き古代寺院]

奥出雲町

交通 道の駅「酒蔵奥出雲交流館」から車で15分
※地図は上記、カネツキ免遺跡の地図を参照

『出雲国風土記』に名前のある蜷部臣(たじびべのおみ)の祖父が建立したと伝えられています。軒丸瓦や軒平瓦などが見つっていますが、伽藍配置など詳細は不明です。



かくえんじ
鱈淵寺 [山陰を代表する天台宗の古刹]

国重要文化財

出雲市

【交通】山陰道斐川ICから車で約35分
一畑電車雲州平田駅から路線バス鱈淵線で20分、鱈淵寺駐車場から徒歩約15分

出雲市別所町にある浮浪山鱈淵寺は、後白河上皇の撰により平安時代末に成立した『梁塵秘抄』にも「聖の住所はどこどこぞ、・・・出雲の鱈淵や、日の御崎、南は熊野的那智とかや」と謡われ、当時から聖地の一つとして都の人々にも認識されていた古刹です。持統6年(692)に製作されたとされる重文観世音菩薩立像をはじめ、彫刻、絵画、工芸品、古文書等の貴重な文化財を有する寺としても有名です。平成21年度から島根大学を中心にはじまった総合調査や出雲市の埋蔵文化財調査により、境内の利用は9世紀に始まり、12世紀以降造成を重ね、文献史料と同じく中世に繁栄していたことが明らかとなりました。



大寺谷遺跡

【重要な古代瓦が出土】



大寺薬師の西側の谷に広がっている遺跡で、住宅建築の際に古代の瓦が発見されました。この瓦は山代郷南新造院跡(松江市)と同范で、その関係から重要性が高まっています。

大寺薬師

国重要文化財

【出雲随一の壮大・荘厳な平安彫刻】

【交通】山陰道斐川ICから車で約20分
一畑電車大寺駅から徒歩約10分



かつて北方の山裾に位置していた寺が洪水により埋もれ、地元の方々により現在地に移された平安期の彫刻が安置されています。木造薬師如来坐像や四天王立像など大型の9躯で、いずれも重要文化財に指定されています。

隠岐地域の古代遺跡

隠岐国は周吉(すき)・隠地(おち)・海部(あま)・智夫(ちぶ)の4郡からなり、国分寺跡など主要遺跡の多くが八尾平野(周吉郡)に分布しています。

律令制下で政治・経済・文化の中心となったこの地域は、古墳時代後期以降、前方後円墳が集中的に築かれたところで、この頃から隠岐国としての下地が整っていったと考えられます。

国分寺などの官寺のほか、高句麗系瓦が出土した郡廃寺や権得寺廃寺といった私寺も造営され、都から遠く離れた当地でも仏教文化が開花した様子がうかがえます。

朝廷への海産物の貢納や配流による都人・文物の交流がもたらした影響も大きかったと考えられます。



郡廃寺(隠岐の島町)
国分寺以前に造営されたと考えられる古代寺院です。



寺ノ峯経塚(西ノ島町)
中国産の陶製四耳壺に経典を取めて土中に埋めていたようです。



大座西2号墳(隠岐の島町)
隠岐の横穴墓や古墳は、奈良時代まで使われました。この古墳からは銅碗・帯金具など貴重な発見もありました。

国史跡

おきこくぶんじけいだい
隠岐国分寺境内 [華やかなる蓮華会舞]

隠岐の島町

  【交通】西郷港からバス17分「国分寺前」下車すぐ
※地図は前ページに記載の地図を参照

伝後醍醐天皇の行在所として知られ、境内は国史跡となっています。寺院は後世に衰退し、室町後期に再興されますが、明治2年の廃仏毀釈により旧堂塔は焼失し礎石のみが残っています。近年境内の発掘調査が行われ、創建時の隠岐国分寺に関わる遺構が確認されています。建物跡の柱穴列は東西9間、南北5間にわたり等間隔で並び、金堂等の主要施設と考えられます。



県史跡

おきこくぶんじにあと
隠岐国分尼寺跡 [瓦が語る尼寺山の遺跡]

隠岐の島町

  【交通】西郷港からバス17分「国分寺前」下車 徒歩10分
※地図は前ページに記載の地図を参照

隠岐国分寺跡の南東約400m、「尼寺山」の丘陵上に位置します。調査では、金堂と講堂と考えられる建物跡2棟と中門や柵列などが見つかりました。遺物は須恵器や緑釉陶器や瓦などが出土しました。軒丸瓦は、隠岐国分寺と同じ型で作られ、上淀廃寺・教吳寺系瓦の退化型式です。周辺地形から1町四方(約1万㎡)の寺域であったと考えられています。



にじばらいせき
尼寺原遺跡 [隠岐一の大遺跡]

隠岐の島町

  【交通】西郷港からバス20分「隠岐高校」下車すぐ
※地図は前ページに記載の地図を参照

県内屈指の古代集落遺跡です。古墳時代末～平安時代中頃の掘立柱建物跡73棟のほか、道路跡など多数の遺構が発見されました。柱間7×5間の特殊な建物跡や緑釉陶器などが出土しており、一般的な集落とは異なる様相を示しています。遺跡の主要部分は保存されています。



町史跡

こうさんじあと
光山寺跡 [篁うたれたる壇鏡の滝]

隠岐の島町

  【交通】西郷港から車で40分

平安初期の歌人として知られる小野篁(おののたかむら)が、隠岐配流後、承和7年(840)に赦免されるまでの数ヶ月間を過ごしたとされています。本堂は明治の廃仏毀釈によって焼失し、4×5間の礎石が今に伝えられています。



古代隠岐地域の遺物紹介

凡例 ① 名称 a 出土遺跡・所在地 b 時期 c 展示している施設

- ① 隠伎倉印(国指定重要文化財)
- a 億岐家に伝来
- b 奈良時代
- c 億岐家宝物館



倉印は税の出納管理をするために使用されました。隠伎倉印は銅製で、隠岐国造家億岐家に伝わっています。現存する倉印は、駿河国と但馬国と合わせて3国だけです。

- ① 和同開珎の銀銭
- a 黒木横穴墓群(西ノ島町)
- b 奈良時代
- c 西ノ島町 自然民俗資料館「ふるさと館」



和銅元年(708)に鑄造された和同開珎は、銅製と銀製の二種類があります。流通量が少ないせいか、近畿より西側での発見は稀で、出雲国府跡に続く二枚目の発見となりました。

隠岐の古代遺跡を満喫コース

尼寺原遺跡

 2分

隠岐国分尼寺跡

 1分

 2分

隠岐国分寺境内

 25分

光山寺跡

SHIMANE (しまね)

P 2 石見地域の古代遺跡

- P 3 1 天王平廃寺 2 重富廃寺 3 養老瀧
- P 4 4 石見国分寺跡 5 石見国分寺尼跡
- P 5 6 石見国分寺瓦窯跡 7 下府廃寺 8 横路遺跡
- P 6 9 五十猛神社 10 神楽岡八幡宮 11 国分寺露禪神社 12 伊甘神社

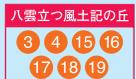
P 8 出雲地域の古代遺跡 1 女夫岩遺跡

- P 10 2 教呉寺跡 3 山代郷南新造院跡 4 山代郷北新造院跡
- P 11 5 山国郷新造院跡 6 西郷郷廃寺 7 天寺平廃寺 8 神門寺境内廃寺 9 斐伊郷新造院跡
- P 12 10 古志本郷遺跡 11 後谷遺跡 12 舎人郷正倉跡 13 青木遺跡
- P 13 14 郡垣遺跡
- P 14 15 出雲国府跡
- P 15 16 出雲国分寺跡 17 山代郷正倉跡 18 出雲国分寺瓦窯跡 19 山代郷南新造院瓦窯跡
- P 16 20 小坂古墳 21 光明寺3号墓 22 出雲玉作跡
- P 17 23 馬場遺跡 24 カネツキ免遺跡 25 高田廃寺
- P 18 26 鱒淵寺・大寺薬師・大寺谷遺跡

P 19 隠岐地域の古代遺跡

- P 20 1 隠岐国分寺境内 2 隠岐国分寺尼跡 3 尼寺原遺跡
- P 21 4 光山寺跡

山陰の 古代遺跡 分布 MAP



TOTTORI (とっとり)

西伯耆地域の古代遺跡 24 P

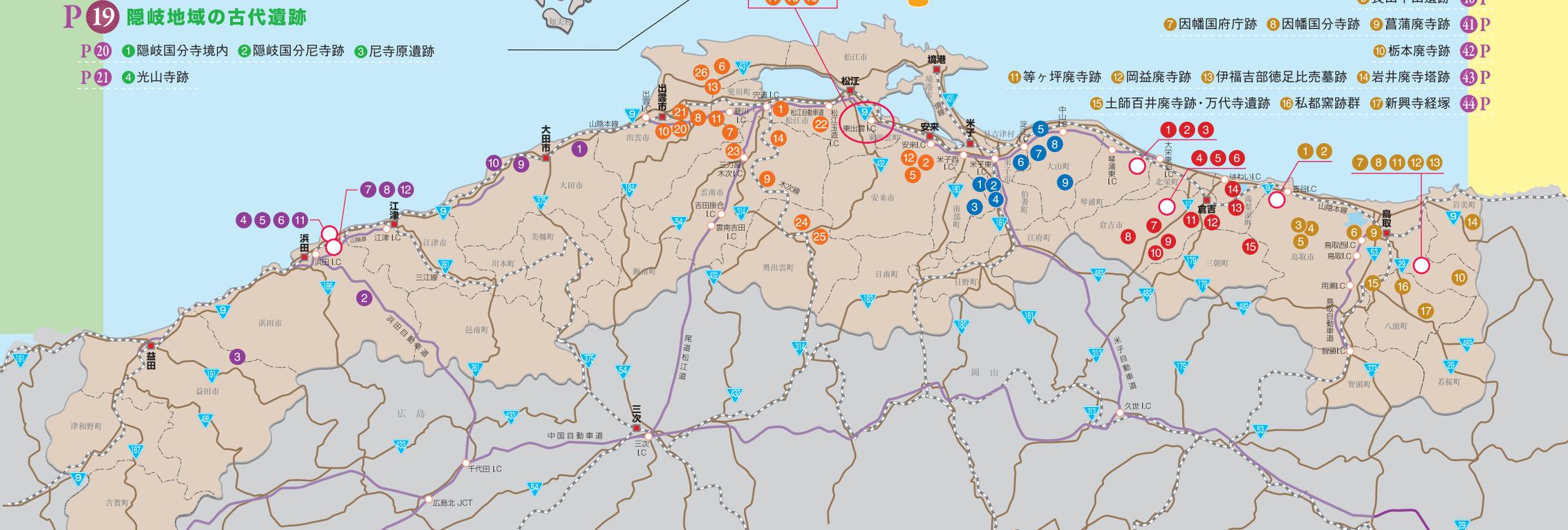
- 1 坂長官衙遺跡群 2 坂中廃寺塔跡 3 金田瓦窯跡 25 P
- 4 大寺廃寺塔跡と石製鷄尾 5 古代山陰道推定線 26 P
- 6 上淀廃寺跡 27 P
- 7 門前礎石群 8 高田原建物跡 9 大山と大山寺 28 P

東伯耆地域の古代遺跡 29 P

- 1 下斉尾1号遺跡 2 大高野官衙遺跡 30 P
- 3 斎尾廃寺跡 31 P
- 4 伯耆国府跡 国庁跡・不入岡遺跡 32 P
- 5 伯耆国分寺跡 6 法華寺畑遺跡 33 P
- 7 石塚廃寺塔跡 8 藤井谷廃寺塔跡 9 広瀬廃寺跡 10 鳥越山窯跡群 34 P
- 11 大御堂廃寺跡 12 大原廃寺塔跡 13 野方・弥陀ヶ平廃寺跡 35 P
- 14 伯耆一宮経塚 15 三徳山 36 P

因幡地域の古代遺跡 37 P

- 1 青谷上寺地遺跡 2 青谷横木遺跡 38 P
- 3 上原遺跡群・馬場遺跡 4 戸島遺跡 5 寺内廃寺跡 39 P
- 6 良田平田遺跡 40 P
- 7 因幡国府庁跡 8 因幡国分寺跡 9 菖蒲廃寺跡 41 P
- 10 板本廃寺跡 42 P
- 11 等ヶ坪廃寺跡 12 岡益廃寺跡 13 伊福吉部徳足比売墓跡 14 岩井廃寺塔跡 43 P
- 15 土師百井廃寺跡・万代寺遺跡 16 私都窯跡群 17 新興寺経塚 44 P



西伯耆の古代遺跡

古代伯耆国は国府の置かれた久米郡をはじめとする6郡からなります。このうち現在の鳥取県西部にあたる西伯耆地域は、日野川流域と大山山麓からなり、弓ヶ浜半島(夜見島)はまだ陸続きになっていませんでした。平安時代には伯耆6郡のうち会見(あいみ)・汗入(あせり)・日野(ひの)郡が置かれていました。

会見郡は現在の米子市、境港市、南部町、伯耆町の一部などにあたり、郡衙と推定される伯耆町坂長の官衙遺跡群に加えて、白鳳期の大寺廃寺、奈良期の坂中廃寺と金田瓦窯跡、青木遺跡・諏訪遺跡群などの古代集落の様相が明らかになっています。延喜式神名帳には伯耆国6社とあり、会見郡内では大神山神社、宗形神社があります。

汗入郡は大山の北西麓を占め、現在の大山町と米子市の一部(旧淀江町)にあたります。郡衙の位置は明らかになっていませんが、名和神社境内の長者原遺跡からは大型建物の柱穴と炭化米が発見されており、正倉と思われま。淀江平野は古墳時代の後半から繁栄し、白鳳期には上淀廃寺が創建されました。

また、「出雲国風土記」に火神岳(ひのかみだけ)と記されている大山は、古くから山岳信仰の霊山であり、修験道の聖地でもありました。中腹の大山寺は天台宗の古刹で、平安時代には都に強訴に上るほどの勢力を誇っていました。

日野郡の名称は現代まで引き継がれており、日野川流域の日野3町と伯耆町の一部が相当します。郡衙や寺院の様相は明らかになっていませんが、長楽寺には平安時代の古仏が伝わっています。また、古来より砂鉄を用いた鉄生産が盛んに行われた地域として知られています。



上淀廃寺調査風景



大山寺・阿弥陀堂(重要文化財)



長楽寺・毘沙門天像



さかちょうかんがいせきぐん 坂長官衙遺跡群 [鉄器製作工房を伴う会見郡衙]

伯耆町

【交通】JR米子駅から岩屋谷行バス「岩屋谷」下車すぐ

長者屋敷遺跡・坂長第6遺跡・坂長下屋敷遺跡

長者原台地に展開する奈良・平安時代の遺跡群で古代会見郡衙と推定されています。長者屋敷遺跡は溝によって区画された東西180m(南北は不明)の広大な範囲に整然と並ぶ8世紀代の大型掘立柱建物2棟が発見されています。また、谷を挟んで400m東側の坂長下屋敷遺跡では、L字状に配された廂建物を含む8世紀後半から9世紀前半にかけての官衙あるいは居館と推定される建物群が確認されています。

その南側の坂長第6遺跡では、大型掘立柱建物群と鉄器を製作した鍛冶炉、鉄滓や鞆(ふいご)の羽口、るつぼなどを捨てた場所が見つかりました。会見郡衙の中心となる政庁域は、坂長第6遺跡東側の集落下に眠っているものと推定されます。

また、遺跡群北方の西山ノ後遺跡では、和同開珎・墨・刀子などを埋納した土師器の胞衣壺が出土しています。



坂長下屋敷遺跡の廂付建物の道路下に保存

町史跡

さかなかはいじとうあと 坂中廃寺塔跡

[特殊な構造の塔心礎] 伯耆町

【交通】JR米子駅から岩屋谷行バス「岩屋谷」下車徒歩5分

※地図は上記、坂長官衙遺跡群の地図を参照。

会見郡衙と推定される坂長官衙遺跡群に隣接する古代寺院跡。径1.5m、厚さ25cmの塔心礎中央の突出部に径17cm、深さ5.5cmの舍利孔があり、山陰地方では類例をみない構造です。出土した軒丸瓦には伯耆国分寺と共通するものがあり、8世紀後半に創建されたと考えられます。



県史跡

かねだかわらかまあと 金田瓦窯跡

[完全に残る瓦窯跡] 南部町

【交通】JR米子駅から御内谷行バス「金田中」下車徒歩10分

小松谷川上流の丘陵南斜面に立地する瓦窯跡で、7世紀後半に6km離れた大寺廃寺の創建瓦を焼いたとされます。

花崗岩の斜面をくり抜いた登窯で、内部は焚口、燃焼室、焼成室、煙道がよく残り、焼成室には瓦窯特有の階段状の8段の平坦面がみられます。



町史跡

おおでらはいじとうあと せきせいしび
大寺廃寺塔跡と石製鴟尾 [華やかなる蓮華会舞]

国重要文化財

伯耆町

【交通】JR米子駅からバス溝口・日野病院行27分「大寺上」下車すぐ

日野川左岸の平野部に建立された白鳳寺院で、昭和41年からの発掘調査で大まかな伽藍配置等が明らかになっています。現在、国道181号線が中央を通り、伽藍は集落の下になっています。東を正面とし、塔を北、金堂を南、講堂を西に配置して回廊を巡らせる変則的な法起寺式伽藍と推定されています。金堂は瓦積基壇で、塔には舍利孔に蓋受けが彫り込まれた心礎が残り、町史跡として、国道脇で公開されています。



塔心礎



石製鴟尾



石製鴟尾

大正7年、福樹寺境内から大寺廃寺の瓦屋根を飾った石製鴟尾が発見され、同寺境内に安置されています。石材は地元の角閃石安山岩が使用され、高さ104cm、幅79cm、厚さ53cmを測り、表面には鱗様の文様が丁寧に彫り出されています。一般には陶製鴟尾が多く、石製の鴟尾は国内では群馬県・山王廃寺と大寺廃寺の2例しか現存しません。このため国の重要文化財に指定されています。その他には、瓦類と足部などの塑像残欠が出土しています。

町史跡

かみよどはいじあと
上淀廃寺跡 [最古級の彩色仏教壁画が出土]

米子市

【交通】山陰道淀江ICから車で3分

淀江平野の東端、日本海を望む丘陵斜面に造営された白鳳寺院。西に金堂、東に塔(中塔)という配置を基本としながら、塔(中塔)の南北に2塔を配して、3塔が南北に並ぶ【三塔一金堂】の特異な伽藍配置をとりまします。金堂・塔の基礎は瓦積基壇で、南塔心礎は柱の根巻き瓦が残る良好な状態で発見されました。伽藍中樞部は中門に取り付け南面のみ回廊で、東西は築地塀で囲んでいたと推定されます。出土した瓦の中に「癸未年」(天文12年(683)と推定)の年号を刻んだ瓦が発見されており、7世紀末に創建されたとわかりました。



整備された中心伽藍(金堂瓦積基壇は復元)



発掘状況を再現した中塔跡

金堂・塔周辺の焼土中から壁画・塑像片が多量に発見されました。壁画は、約5000点に及ぶ壁体のうち、約1200点余に彩色があり、「神将」「菩薩」「天蓋」「天衣」「花卉」「蓮弁」「頭光」「遠山と霞」「遠景樹木」等のモチーフが認められ、たくさんの仏が登場する物語的な構図が想定されています。また、金堂及び中・南塔周辺からは多量の塑像片が発見されており、金堂内には丈六級如来像をはじめ菩薩・天部像などが安置され、塔にも塑像が置かれていたと考えられます。

なお、近くに併設している上淀白鳳の丘展示館では、発掘調査の成果に基づいて館内に金堂内部を復元し、往時の上淀廃寺を想起させる展示を行っています。

見どころは、塑像片等の資料をもとに当時安置されていた釈迦如来像、両脇菩薩像の復元展示です。

このほか、県指定保護文化財の壁画片や、当時の彩色を研究し、再現した仏教絵画を壁面に表現しています。



展示館内の復元仏像

こだいさんいんどうすいていせん
古代山陰道推定線 [古代から踏襲された道]

大山町

【交通】JR御来屋駅から徒歩5分

大山町内では歴史地理学の成果に基づいて、古代山陰道のルートが推定されています。平成20年に行われた発掘調査の結果、下菅蒲谷遺跡と西坪三軒屋遺跡の間でこれまで歴史地理学で考えられてきた古代山陰道の推定ルートを追認するように、幅9~10mの道路遺構が約450mにわたって存在することがわかりました。

現在このルートは町道上坪名和神社線と重複することから、古代山陰道の可能性が高く、現在まで、同じルートで使われていることが明らかになりました。



路面確認状況



Information

行ってみよう資料館

上淀白鳳の丘展示館

瓦や壁画・塑像など上淀廃寺跡の出土遺物が展示されています。



上淀廃寺 塑像仏

【開館時間】9:00~18:00(入館17:30まで)
【電話】0859-56-2271【休館日】火・祝祭日の翌日、年末年始
【入館料】一般310円・高大生160円・団体(15名以上)60円引き

町史跡

もんぜんそせきぐん
門前礎石群

【謎の礎石群】 大山町

【交通】 JR名和駅から徒歩20分

門前集落から北西の水田の中にあり、7石4列、28個の礎石が露出しています。以前に発掘調査が行われており、古代から中世にかけて築かれた建物の礎石と考えられています。また、周囲の水田下に礎石の抜き取り穴や繰り石が確認されているため、この礎石群以外にも建物が存在したと推定されます。しかし、瓦など建物の性格を表す遺物は出土していないことから、何の建物かは謎のままです。



町史跡

たかだばらたてものあと
高田原建物跡

【上淀廃寺と軒丸瓦が共通】 大山町

【交通】 JR御来屋駅から車で10分

庄内地区の穀倉地帯を大山に向かった丘陵地にある寺院跡。かつては瓦窯跡とされていたが、昭和46年の発掘調査で、一辺9mの乱石積基壇が確認され、古代寺院と考えられています。出土軒丸瓦は、4km離れた同じ汗入郡内の上淀廃寺の創建瓦と共通し、上淀廃寺に先行する寺院ではないかと考えられます。



東伯耆の古代遺跡

現在の鳥取県中部にあたる東伯耆地域は、天神川流域と東郷池周辺、大山山麓からなり、平安時代には伯耆6郡のうち八橋(やはし)・久米(くめ)・河村(かわむら)郡が置かれていました。八橋郡は琴浦町と北栄町の一部にあたり、特別史跡の斎尾廃寺跡を始め、郡衙及び正倉と推定されている下斉尾1号遺跡と大高野官衙遺跡があり、八橋郡の中心であったことがわかります。平安時代以降には船上山が山岳修験の行場となりました。



伯耆国分寺軒丸瓦

久米郡は倉吉市の大半と北栄町の一部にあたり、国府が置かれた伯耆国の中心地です。7世紀中頃には山陰最古の大御堂廃寺が創建され、8世紀になると、市街地の西に広がる丘陵地に伯耆国庁跡、それに関連する役所である法華畑遺・不入岡遺跡、国の華ともいわれた伯耆国分寺が近接して営まれています。さらに法華寺畑遺跡は国分尼寺に転用されたと考えられます。周辺景観も含め、古代の地方行政のあり様を示す貴重な地域です。平安時代になると山深い谷奥に大日寺が建立され、浄土信仰を表現した広瀬廃寺も創建されています。



船上山

河村郡は湯梨浜町、三朝町と倉吉市の一部にあたります。大原廃寺、野方・弥陀ヶ平廃寺などの白鳳寺院が建立され、平安時代になると修験道の行場としての三徳山三仏寺が繁栄し、やがて末法思想の広がりを受けて伯耆一宮・倭文神社境内などに経塚が造られます。



だいせんとだいせんじ
大山と大山寺 [中国地方最高峰の信仰の山]

国重要文化財

大山町

【交通】 JR米子駅から大山行バス30分「大山寺」下車
米子自動車道米子ICから車で15分

中国地方の最高峰1709m(弥山)の大山は、古くから山岳信仰の聖地でした。後に平安時代になると、地藏菩薩を本地仏とする大智明権現を本尊として、天台宗の角磐山大山寺の歴史が始まります。南光院・中門院・西明院の一山三院の大寺院で、明治初年の廃仏棄釈により衰退するまで隆盛を誇りました。中世～近世の壮大な僧坊群等の跡がブナ林の中に苔むした石垣を留めています。大山もうで・大山まいるのための「大山道」は各方面から大山を目指しており、「川床道」「横手道」などに往時の名残を留めています。

古代の遺物としては、銅造観世音菩薩立像(白鳳期)、鉄製厨子(平安後期)、阿弥陀堂の阿弥陀三尊像(平安後期)などが重要文化財に指定されています。



木造阿彌陀如来及び阿闍梨像(平安後期)



Information

……行ってみよう資料館……

大山寺宝物館 霊宝閣

重要文化財を始めとする大山寺の名宝の数々を拝観できます。



【開館時間】9:00～16:00
【入館料】300円
【休館日】12月～3月
【電話】0859-52-2072

八橋郡衙の古代遺跡

齋尾廃寺跡、大高野遺跡、下斉尾1号遺跡

伯耆國の中央に位置する琴浦町周辺は古代の八橋郡で、特別史跡齋尾廃寺跡、史跡大高野官衙遺跡、下斉尾1号遺跡からなる齋尾・大高野遺跡群は、八橋郡の郡衙とそれと一体をなす郡衙周辺寺院からなり、律令国家における地方支配の具体相を示す重要な遺跡群です。



しもさいのおいちごういせき 下斉尾1号遺跡

【八橋郡衙の関連施設】 琴浦町

【交通】JR浦安駅から車で5分
※左記、八橋郡衙の古代遺跡の地図を参照

下斉尾1号遺跡は齋尾廃寺跡の北に位置し、発掘調査により大溝と大型の掘立柱建物跡で桁行5間、梁行3間の側柱建物跡が確認されています。大溝は大高野官衙遺跡で確認された区画溝よりも規模が大きく、本来の区画は大きなものと考えられます。発掘調査範囲は部分的なものです。齋尾廃寺跡、大高野官衙遺跡との位置関係から重要な官衙施設であったと考えられます。



官衙遺構

国特別史跡

さいのおはいじあと 齋尾廃寺跡 [山陰唯一の国特別史跡]

琴浦町

【交通】JR浦安駅から車で5分
※左ページ、八橋郡衙の古代遺跡の地図を参照

山陰地方で唯一、国特別史跡に指定されている古代寺院跡。大山山麓で芝畑の中に、金堂跡と塔跡の基壇や講堂跡の礎石が良好な保存状態で残っています。伽藍配置は塔を西、金堂を東に置く法隆寺式ですが、講堂が金堂の北に寄る変則的な配置となり、寺域は溝によって東西約160m、南北約200mに区画されています。7世紀後半の創建とされ、軒瓦の文様は、軒丸瓦が外区に雷文を巡らす紀寺式、軒平瓦が忍冬唐草文の法隆寺式と、いずれも近畿地方を中心に分布するものです。

塑像では小型像の仏頭や、唇や螺髻、衣文など丈六仏の断片が多数出土しており、壁面を飾った三尊博仏とともに白鳳寺院の堂内荘嚴の様子を教えてください。このように齋尾廃寺は、地方にありながら中央との強いつながりを強く感じさせる古代寺院です。



齋尾廃寺復元CG(金堂)



塔(左)と金堂(右)の基壇



齋尾廃寺復元CG(全体)



齋尾廃寺法隆寺式軒平瓦



齋尾廃寺跡全景



齋尾廃寺仏頭

齋尾廃寺紀寺式軒丸瓦

齋尾廃寺博仏

国史跡

おおたかのかんがいせき 大高野官衙遺跡 [八橋郡の正倉]

琴浦町

【交通】JR浦安駅から車で5分
※上記、八橋郡衙の古代遺跡の地図を参照

大高野官衙遺跡は谷を挟んで齋尾廃寺跡の東側に位置し、八橋郡衙における田祖や公出拳(くすいこ)を保管する正倉院であったと考えられています。丘陵を南北105m、東西130mにわたって溝で区画し、その中に企画性を持って整然と並んだ建物跡が確認されています。建物跡は7世紀末から作られた9世紀後半までこの区画に作られており、現在建物跡の礎石を見ることが出来ます。

建物跡は、穎穀(えいとう; 稲穂がついた状態の稲)を保管するため、床面荷重を支えるための束柱を有する総柱建物の高床倉庫であったと考えられています。稲穀収蔵施設である正倉の姿を具体的に示しており、古代国家の地方支配の実態を具体的に知る上で重要な遺跡の一つです。



大高野遺跡礎石建物

国史跡

ほうきこくふあと 伯耆国府跡
こくちょうあと・ふにおかいせき 国庁跡・不入岡遺跡

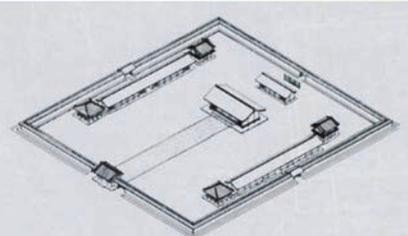
倉吉市

【交通】JR倉吉駅から中野行バス「歴史公園」下車すぐ

【我が国を代表する国府遺跡】

伯耆国庁跡は昭和48年からの発掘調査によって遺跡の内容がほぼ明らかになり、隣接する法華寺畑遺跡と合わせて国史跡に指定されました。さらに国庁跡から北東に約1.5km離れた不入岡遺跡で国府に関連する遺構が確認されたため、これらは一括して「伯耆国府跡/国庁跡・法華寺畑遺跡・不入岡遺跡」として、国史跡として保護が図られています。

伯耆国庁跡は、大きな溝で東西273m、南北227mの範囲が囲われ、儀式などを行う内郭(政庁域)と実務を執り行う外郭(官衙域)からなっています。築地塀・溝で区画された内郭には、南門・前殿・正殿・後殿・脇殿・楼閣風建物などで構成される政庁の殿堂が整然と配され、外郭の北側と西側には曹司の建物群が確認されています。政庁と曹司群が一体として区画された中に配置されているのが特徴で、8世紀後半に造営され、その後大きく3度の変遷を見せています。特に9世紀中頃には主要な建物が掘立柱建物から礎石建物に変わり、前殿を廃して前庭を整備するなど国庁が最も整備された時期を迎えます(右図)。10世紀以後には新たな造営はみられなくなり、国庁の機能は他所へ移っていったと考えられています。



伯耆国庁内郭の復元図(9世紀)

不入岡遺跡は、溝で区画された内郭において廂付建物を長大な建物が「コ」の字状に囲む8世紀前半の官衙遺跡で、久米郡衙ないしは前記の国庁に移る前の国庁と考えられています。8世紀後半には様相が一変し、総柱建物・長大な掘立柱建物が並立する倉庫群となり、規模や位置関係から国庁が直轄する正倉であったと考えられます。



国庁跡内部西脇殿



国庁跡南門



法華寺畑遺跡 伯耆国分寺跡

伯耆国庁跡

国史跡

ほうきこくぶんじあと 伯耆国分寺跡 [国の華・鎮護国家の官寺]

倉吉市

【交通】JR倉吉駅から倉吉農高行バス「国府」下車 徒歩5分

寺域は東西約182m、南北160mに土塁・溝などで区画され、その西よりに南北に軸をそろえて南門・金堂・講堂が並び、南西隅に塔が配されています。平安時代の天曆2(948)年に国分尼寺から出火した火災が国分寺も焼いたと記録があり、発掘調査でも塔の北西側で焼土・炭化材などが出土して、当時の火災を裏付けています。12種類もの軒丸・軒平瓦が出土していますが、このうちのいくつかは、伯耆国内の他の寺院でも出土しており、これらの寺院を建立した豪族が国分寺造営に協力したと考えられます。その他、屋根の四隅に吊された風鐸や鋸杖頭などの貴重な仏教遺物も出土しています。



伯耆国分寺跡出土風鐸



国史跡

ほっけしばたいせき 法華寺畑遺跡 [復元整備された最大級の四脚門]

倉吉市

【交通】JR倉吉駅から倉吉農高行バス「国府」下車 徒歩5分
※地図は上記、伯耆国分寺跡の地図を参照

国分寺跡の北約50mに位置します。溝と板塀により150m四方に区画され、各辺の中央に門があります。南門を入ると広場があり、北側半分中央に3棟の建物が並びます。こうした構造からは国庁に関連する役所と考えられますが、平安時代の記録に国分尼寺の倉から出火して、南側の国分寺まで焼いたとあり、発掘調査で見つかった火災の痕跡と「法花寺」の地名から、ここが国分尼寺としても使われたと推定されます。遺跡全域が整備され、板葺・四脚門の西門等が復元整備されて市民に親しまれています。



法華寺畑遺跡掘立柱建物



復元された西門(四脚門)

Information

行ってみよう資料館
倉吉博物館



伯耆国府跡・国分寺跡・大御堂廃寺跡を始めとする倉吉市内の出土品を展示。
【開館時間】9:00~17:00
【休館日】月・祝祭日の翌日
【入場料】一般210円
高校・大学生100円

県史跡

いしづかはいじとあつ
石塚廃寺塔跡

[奈良時代の塔心礎] 倉吉市

【交通】JR倉吉駅から関金方面行バス「石塚入口」下車 徒歩10分

小鴨川左岸の河岸段丘上にある奈良時代の寺院跡。塔心礎と金堂跡と推定される基壇が残っています。塔心礎は直径2.4m、中央に直径70cm、深さ12cmの柱穴があります。金堂跡とされる基壇状の高まりは塔心礎の北側にあり、礎石が数個確認されています。出土瓦は地方色の強いもので、8世紀前半の創建と考えられます。



市史跡

ふじいだにはいじとあつ
藤井谷廃寺塔跡

[奈良時代の山林寺院] 倉吉市

【交通】JR倉吉駅から車で30分

小鴨川左岸の丘陵上にある奈良時代後半に建立された寺院跡。現在は塔跡の基壇の一部と心礎が残っています。塔心礎は長径1.7mで、中央に直径45cm、深さ10cmの柱穴があります。出土瓦には美作地方や伯耆国分寺・西伯耆の大寺廃寺などに共通する文様が見られて注目されます。



国史跡

おおみどろはいじとあつ
大御堂廃寺跡 [山陰最古級の白鳳寺院「久米寺」]

倉吉市

【交通】JR倉吉駅からバス「駄経寺」など下車 倉吉パークスクエア隣

昭和28年に塔心礎・四天柱礎石（上灘小学校に移設）が発見され、平成8年以降の発掘調査で中心部の様相が明らかになった白鳳寺院。東西135m、南北165m以上の広大な寺域の東側に中心伽藍を、西側に溜枳などの施設を配しています。伽藍配置は官寺特有とされる川原寺式（観音寺式）が採用されており、僧が住む僧房は大規模な礎石建物で、木樋と溜枳による上水道施設を完備しています。出土した軒瓦などから創建は山陰地方で最も早い7世紀中頃と考えられ、鬼瓦・埴仏・塑像・銅製獣頭・銅匙・木製祭祀具・仏具の鋳型などの多彩な出土遺物からも、山陰を代表する寺院といえます。発見された墨書土器から、寺名が郡名と同じ「久米寺」であったと推定されています。



銅製獣頭



ひろせはいじとあつ
広瀬廃寺跡

[浄土への憧れを表した寺院] 倉吉市

【交通】JR倉吉駅から広瀬行バス「広瀬口」下車 徒歩5分

倉吉市南部の谷間に立地する平安時代後期～鎌倉時代の臨池式伽藍の寺院。遣り水を引き入れた池を中心として北に本堂、西に阿弥陀堂、東に礎石建物を配置する。浄土教信仰の影響を受け、この世に浄土世界を表現した寺院と推定されています。



北方建物（本堂）

とりごえやまかまあとぐん
鳥越山窯跡群

[奈良時代の須恵器窯] 倉吉市

【交通】JR倉吉駅から関金方面行バス「関金温泉」下車 徒歩5分

関金温泉の東側にある丘陵南東斜面に営まれた4基からなる須恵器窯跡群。このうち奈良時代の2号窯は、長さ9m、幅1.2mで、天井部分がアーチ状に残る保存状態のよい窯跡でした。東伯耆の寺院・役所等で使う器を供給したものでしょう。



発掘調査状況

国史跡

おおはらいはいじとあつ
大原廃寺塔跡

[山陰最大級の塔心礎] 倉吉市

【交通】JR倉吉駅から三朝方面行バス「大原」下車 徒歩10分

天神川右岸の丘陵に所在する白鳳寺院。発掘調査によって、7世紀後半に創建され、平安時代末頃には講堂が廃絶したと推定されています。伽藍配置は東に塔、西に金堂を配する法起寺式ですが、講堂が金堂の北側にある変則的配置をとります。塔心礎は長径2.9mと山陰地方で最大級の大きさです。出土遺物は瓦の他に、塑像・埴仏片などがあり、大御堂廃寺との共通性が注目されます。



塔跡と塔心礎

のかた・みだがるはいじとあつ
野方・弥陀ヶ平廃寺跡

[県内最古の寺院] 湯梨浜町

【交通】JR松崎駅からバス松崎北方線「白石入口」下車 徒歩15分

東郷池右岸側の丘陵地に位置する白鳳寺院で、古代山陰道に面していたと考えられます。約800m離れた野方と弥陀ヶ平に堂塔があったと推定され、弥陀ヶ平には果樹園の中に礎石群が残っています。多量の瓦や鴟尾片が発見され、大御堂廃寺とならぶ7世紀中頃に創建された可能性があります。近くに河村郡衙の可能性のある久見遺跡があります。



火を受けた礎石

国史跡

伯耆一宮経塚 [末法思想に基づく経塚供養]

国宝

湯梨浜町

【交通】 JR松崎駅から車で10分、山陰道はわいICから車で10分



東郷池の東岸、伯耆国一宮として知られる倭文(しとり)神社境内の丘陵上に、伯耆一宮経塚があります。直径16m、高さ1.6mほどの墳丘のほぼ中央、深さ1.5mのところ、埋納品を納めた石槨があり、大正4年に発掘されました。石槨内からは経典を納めた銅製経筒や金銅仏2、弥勒仏を刻んだ銅板、銅鏡2、短刀、檜扇、瑠璃玉などが発見されました。経筒の外表面には銘文が刻まれ、康和5(1103)年に僧京尊が如法経一部八巻を供養したことが記されています。出土した経筒などは東京国立博物館に収められています。



銅経筒

弥勒仏銅板

国名勝・史跡

三徳山 [蔵王権現を祀る信仰の山]

国宝・重要文化財

三朝町

【交通】 JR倉吉駅から三朝方面行バス40分「三徳山参道入口」

因幡国との国境にも近い標高900mの険しい山塊にある霊山。北側斜面にできた自然の岩窟に建てられた国宝・三仏寺奥院(投入堂)を頂点に、急峻な尾根を辿る行者道に沿って納経堂・地藏堂・文殊堂ほかの重要文化財建造物が配され、山麓には本堂と三子院があります。投入堂に安置された蔵王権現をはじめとする古仏群や、曼荼羅を鏡面に線彫りした鸚鵡(おうむ)文鏡などの仏教美術の宝庫としても知られています。平安時代後期に盛んになる修験道の行場としての霽囲気を今に伝える信仰の山です。



蔵王権現立像(重文・正本尊)



国宝 三仏寺奥院「投入堂」

因幡の古代遺跡

現在の鳥取県東部にあたる古代因幡国は、千代川流域を挟んで東の蒲生川・西の河内川流域からなり、万葉歌人大伴家持が「新たしき年の初めの初春の今日降る雪のいや重け良事」の歌を詠んだ国府が置かれた法美(ほうみ)郡をはじめとし、気多(けた)・高草(たかくさ)・邑美(おうみ)・巨濃(この)・八上(やかみ)・智頭(ちづ)の7郡が置かれていました。現在は巨濃郡が岩美町、八上郡の一部が八頭町と若桜町、智頭郡の一部が智頭町である以外は、すべて鳥取市域となっています。

気多郡では郡衙とされる上原遺跡群とその出先機関と考えられている戸島・馬場遺跡、白鳳期創建の寺内廃寺が知られ、青谷上寺地遺跡からは古代山陰道とされる道路遺構が確認されています。東大寺領荘園・高庭庄が置かれた高草郡には白鳳寺院の菖蒲廃寺などがあり、岩吉遺跡では因幡美人の人形も出土しています。

因幡国府・国分寺跡などが置かれた法美郡は、古代豪族伊福吉部氏の本拠地であり、伊福吉部徳足比売の火葬墓が発見されています。等ヶ坪廃寺、岡益廃寺という白鳳から奈良期の寺院も伊福吉部氏との関わりが推定されます。また、紙子谷窯跡では瓦と須恵器が生産されています。一方、袋川を遡った国境に近い山奥には、山林寺院の栃本廃寺が造営されています。巨濃郡には地元で「鬼の碗」と呼ばれる塔心礎が残る岩井廃寺塔跡が知られています。

八上郡では郡衙と推定される万代寺遺跡と白鳳寺院の土師百井廃寺があります。また、私都川流域の丘陵では古墳時代から奈良・平安時代にかけて大規模な須恵器生産が行われており、国府をはじめとする因幡国一円に供給していたことがうかがえます。智頭郡の郡衙等は明らかになっていませんが、智頭枕田遺跡では施釉陶器など、平安時代の遺物がまとまって出土しています。



あおやかみじちいせき
青谷上寺地遺跡 [湿地に築かれた古代山陰道]

鳥取市

【交通】JR青谷駅から徒歩5分

水田下で幅約8mの道路遺構が確認されており、その規模や造り方から「古代山陰道」と考えられます。確認された道路遺構は保存状態がよく、粗朶(そだ)と呼ばれる木材や粘土を用いて丁寧に作り上げ、最後に路面を礫(れき)で舗装していました。低湿地における官道の造り方が大変よく分かる貴重な発見です。また、この道路遺構と直交する盛土遺構も確認されており、当時の土地区画が道路を基準になされたことも確認されました。



道路遺構



青谷横木遺跡

あおよこぎいせき
青谷横木遺跡 [日本でも有数の出土量を誇る木製祭祀具]

鳥取市

【交通】JR青谷駅から徒歩30分
 ※地図は上記、青谷上寺地遺跡の地図を参照

青谷平野東端の丘陵裾から平坦部にかけて広がる低湿地遺跡で、道路遺構や土手状遺構が確認されています。道路遺構は幅約9mあり、湿地上に粗朶や礫を用いて盛土し、入念な路盤の仕上げがなされていることがわかっています。

豊富な出土品の中には、祓(はら)えの祭祀に使われたと考えられる木製祭祀具や平安時代の出拳(すいこ)に関する事務を行っていたことを示す木簡、題籤(だいせん)軸等があり、これらの出土品から、日置郷等を管轄する気多郡衙の出先機関がこの場に置かれたことが推定されます。



人形と馬形



道路遺構

かんばらいせきぐん ばばいせき
上原遺跡群・馬場遺跡 [全貌を見せた古代気多郡衙]

鳥取市

【交通】JR宝木駅からバス瑞穂上光線「上光」下車
 (馬場遺跡)

鳥取市逢坂地区において古代気多郡衙の全体像を明らかにしたのが上原遺跡群で、南から上原南、上原、上原西、山宮阿弥陀森遺跡が約1.3kmにわたって展開しています。このうち上原遺跡が中心の政庁と推定されます。上原南遺跡では大量の瓦や鷗尾片が発見されており、郡衙に関係する寺院があったと思われます。上原西遺跡では高床倉庫が確認され、郡衙正倉であることがわかりました。上原遺跡の北側に隣接する山宮阿弥陀森遺跡では広大な範囲を溝で区画した一画があり、出土品などから、郡衙に属する鍛冶工房や厨などがあった場所と考えられます。

同じ気多郡内で上原遺跡群から3.5km離れた上光地区でも方形に建物が整然と配された戸島遺跡と大規模な倉庫群が発見された馬場遺跡があり、馬場遺跡は郡衙の出先機関または郷の正倉と推定されています。



※上原遺跡群は大きなタブノキが目印です。



上原遺跡



馬場遺跡



戸島遺跡

馬場遺跡

気高町上光

新日本国際洋行村道建設GC

としまいせき
戸島遺跡

[郡衙に関連する出先機関] 鳥取市

【交通】JR宝木駅からバス
 瑞穂上光線「上光」下車

※地図は上記、上原遺跡群の地図を参照

河内川右岸の扇状台地にあり、東西約45m、南北約55mの規模を持つ方形区画に整然と並ぶ布堀りの掘立柱建物、溝、堀等が確認されました。建物の配置は南を正面にして、左右対称の形となっています。南北の区画に分かれ、建物を口字状に配置し、建物間を堀で連結し区画を形成しています。この区画は7世紀後半ごろから8世紀初頭まで機能しており、気多郡坂本郷に置かれた評・郡家の出先機関や郷家などと考えられます。



てらうちはいじあと
寺内廃寺跡

[村中に残る塔心礎] 鳥取市

【交通】JR鳥取駅からバス
 鹿野方面「官方」下車 徒歩5分

※地図は上記、上原遺跡群の地図を参照

上原遺跡群から東に800mの寺内集落にある古代寺院跡。長径2m、厚さ70cmもある巨石の中央に径56cm、深さ28cmの柱穴を持つ塔心礎と飛鳥～奈良時代の瓦が出土しています。伽藍配置等は明らかになっていませんが、気多郡衙の近くに位置する重要な寺院跡と考えられます。



よしだひらたいせき
良田平田遺跡 [中国地方最古級7世紀末の木簡出土]

鳥取市



【交通】JR鳥取駅からバス吉岡線20分「良田」下車 徒歩10分

※地図は下記の地図①を参照

湖山池南岸の狭い谷にある良田平田遺跡では、古代の掘立柱建物群、溝などの遺構が確認されました。溝からは木簡、墨書土器、銅製腰帯具、木製祭祀具等が出土しており、遺跡地内には官衙関連施設が存在したと考えられます。特筆すべきは、「(御)前に白(もう)す」の書式で書き出す上級官司あての木簡(「前白木簡」)で、7世紀末に遡る中国地方最古級のものです。

良田平田遺跡は大宝令以前から津としての湖山池と官道の接点として、位の高い人物が立ち寄って文書を受け取るなどした役所関連施設が存在したようです。



発掘調査状況



調査地風景



「恐
く
奉
御
前
白
寵
命
」

古代高草郡の周辺 **湖山池周辺の古代遺跡**

鳥取平野を貫流する千代川左岸一帯は古代の行政区画でいうと「因幡国高草郡」に属していました。周辺の遺跡から古代の遺跡が数多く確認されており、高草郡の様子が少しずつ明らかになっています。

- ① 良田平田遺跡
- ② 菖蒲遺跡
- ③ 山ヶ鼻遺跡
- ④ 岩吉遺跡
- ⑤ 大橋遺跡
- ⑥ 桂見遺跡
- ⑦ 高住平田遺跡
- ⑧ 吉岡遺跡(丸山地区)
- ⑨ 吉岡遺跡(大海地区)
※吉岡大海廃寺

高草郡
における
主要な
古代遺跡名



- 古代山陰道推定ルート①
- - 古代山陰道推定ルート②

因幡国史跡

いなばこくちやうあと
因幡国庁跡 [万葉の風景が広がる]

鳥取市

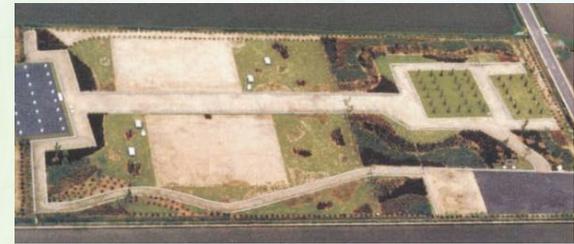


【交通】JR鳥取駅からバス中河原線25分「宮ノ下」下車 徒歩15分

因幡国庁跡は袋川中流域に開けた国府平野にあります。古くは江戸時代よりその所在が探られていましたが、昭和50年代の圃場整備に伴う発掘調査によって、中郷及び安田集落を中心とした地下にあることが確認されました。

両面庇付の建物跡周辺からは、仁和2年(886)と書かれた題籤(だいせん)や役人が付けるベルトの装飾品である石帯、緑釉陶器・円面硯などが出土しており、この建物を中心とし、平安時代の役所がつくられていた可能性が考えられています。

現在は国の史跡となり、その中心部分は史跡公園として整備されています。



しょうぶはいじあと
菖蒲廃寺跡

[水田の中に残る塔心礎] 鳥取市



【交通】JR鳥取駅から車で10分

水田の中に、長径2.5mの巨石の中央に直径40cmの柱穴のある塔心礎があり、瓦が出土することから菖蒲廃寺と呼ばれています。また、西に8km行った湖山池南岸でも同形の瓦や鴟尾が発見され、吉岡大海廃寺と呼ばれています。が、いずれも実態はよくわかっていません。



いなばこくぶんじあと
因幡国分寺跡

[移された塔礎石群] 鳥取市



【交通】JR鳥取駅からバス中河原線25分「宮ノ下」下車 徒歩20分

※地図は上記、因幡国庁跡の地図を参照

因幡国府の南西、国分寺集落にある国分寺境内に、8個の大きな石があります。これは発掘調査によって見つかった塔の礎石で、調査後ここに移されたものです。調査ではこの他、南門跡と寺域の境界を表す築地基壇がありました。この成果から国分寺集落のほとんどが当時の寺域であったと考えられます。



国史跡

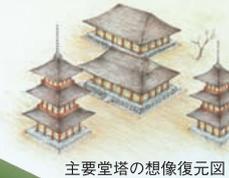
とちもといはいじあと
栃本廃寺跡 [稀有な古代寺院]

鳥取市

【交通】JR鳥取駅からバス「栃本公民館前」下車
徒歩25分

大石川と谷川の合流点付近の段丘に位置し、四方を山に囲まれた飛鳥時代(7世紀末)に創建され、10世紀初頭まで続いた古代寺院です。当初、東と南の2箇所で露出していた塔心礎が指定され、東西に2塔を配置した薬師寺式の伽藍配置が想定されていました。その後、発掘調査により南塔・東塔・金堂・講堂が確認されました。配置の特徴は、南塔と金堂の主軸が一致するが、講堂は西にずれていること、及び金堂と東塔の南辺が一致することで、全国的に珍しい伽藍配置といえます。因幡山間部の豪雪地域のためか、堂塔には重量のかかる瓦は全く使われていません。

なぜこのような寺院が山間地に造られたのか、だれが建立したのかなど、多くの謎が残されています。



市保護文化財

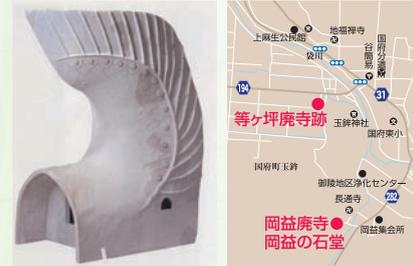
とうがつぼはいはいじあと
等ヶ坪廃寺跡

鳥取市

[畿内との結びつきを示す]

【交通】JR鳥取駅からバス
「高岡口」下車 徒歩10分

袋川左岸、玉集集落の西外れに位置します。園場整備によって堂塔の心礎と考えられる礎石などが見つかったほか、ほぼ1個体分の須恵質の鷗尾が出土しました。このほか軒丸瓦は2種類あり、その文様は奈良・川原寺と関係するものです。こうした遺物から、飛鳥時代におけるこの地域の重要な寺院であったことが窺えます。



国史跡

国重要文化財

いふきべとこたりひめのはかあと
伊福吉部徳足比売墓跡

鳥取市

[山陰最古の火葬記録]

【交通】JR鳥取駅からバス
「宮ノ下」下車 徒歩30分

※地図はP41因幡国庁跡の地図を参照

墓跡は宮ノ下小学校の裏山にあります。長さ1.4m、幅0.9mほどの台石の上に、ほぼ同じ大きさで、中央に直径30cm弱の穴が開けられた石が乗っており、そこに骨蔵器が納まっていたといわれています。骨蔵器には徳足比売が文武天皇に仕え、和銅3年(710)に火葬されたことなどが刻まれています。国の重要文化財となり、現在は東京国立博物館で見ることができます。



国史跡

いわいはいじとああと
岩井廃寺塔跡

岩美町

[鬼の椀があるところ]

【交通】JR岩美駅からバス
「岩井」下車 徒歩10分

蒲生川右岸の山裾、旧岩井小学校の玄関前に「鬼の椀」と地元の方々に呼ばれる心礎があります。長径3.6m、短径2.4mほどの大きさで、上面には一辺1.4mの正方形の柱座がつくれ、その中央に直径77cmの柱孔が開いています。周辺からは飛鳥時代の瓦が採取されており、この寺の創建年代を示すと考えられています。



国史跡

はじめもいはいじあと まんたいいせいせき 土師百井廃寺跡・万代寺遺跡 [八上郡の中心地]

八頭町

【交通】JR郡家駅から車で10分(土師百井廃寺跡)
若桜鉄道「八頭高校前」駅から徒歩10分(万代寺遺跡)

土師百井廃寺跡は圍場整備などに伴う発掘調査によって、金堂、講堂、回廊、中門などの中心伽藍が確認され、東に塔、西に金堂を配する法起寺式の配置であることが判明しました。とくに塔跡は心礎など17個の礎石がすべて当時のまま残っています。

出土遺物には蓮華文軒丸瓦などの瓦類や鴟尾、螺髻、須恵器や陶硯などがあり、飛鳥時代の寺院跡であることがわかっています。

また、この東側には万代寺遺跡があり、発掘調査によって東西・南北を井然と区画する溝、その中に配置される大型の掘立柱建物跡群などが見つかかり、八上郡衙の跡と推定されています。



きさいちかまあとくん 私都窯跡群

[須恵器の一大産地] 八頭町

【交通】JR東郡家駅から徒歩60分

私都川南側の丘陵斜面につくられた須恵器の窯跡群です。全体で30基以上が確認され、このうち14基の発掘調査が行われました。その多くが奈良から平安時代にかけて操業されたものであることがわかり、因幡国府や八上郡衙などに供給されたと考えられます。



発掘調査状況

県保護文化財

しんごうじきょうづか 新興寺経塚

[古代の祈りが今蘇る] 八頭町

【交通】若桜鉄道八東駅から徒歩15分

新興寺裏山の金峯山(きんぶさん)中腹で、大正6年に見つかったものです。急な斜面に穴を掘り、川原石を積んで作られた部屋の中に、銅製経筒・刀・青白磁などが入っていました。経筒にはおそらく写経した巻物が収められていたのでしょう。遺物から平安時代につくられたと考えられます。



※出土品は県立博物館に寄託公開されています。

古代ミ二辞典



知っておこう‘古代寺院の施設’

寺院には様々な施設があります。ここでは出雲国分寺の復元想像図でどのような施設があったか見てみましょう。

僧坊(そうぼう)

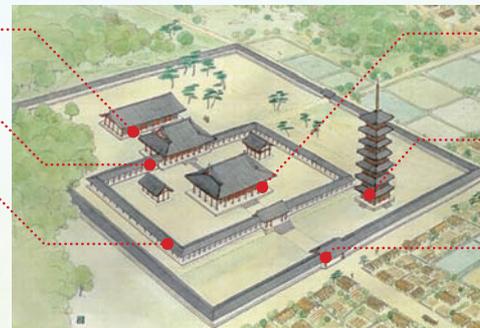
お坊さんの住まいです。

講堂(こうどう)

お坊さんが勉強をする場所です。

回廊(かいろう)

中心部を囲む屋根付きの廊下です。正面には入口となる中門が設置されました。



金堂(こんどう)

仏像を安置する寺の中心施設です。

塔(とう)

仏舎利を奉る建物です。仏教伝来当初は寺の中心施設でした。

南門(なんもん)

寺の入口で、ここから北が寺の敷地です。

知っている面白い‘古代の瓦’

古代になると寺院や行政施設である官衙など一部の施設ではありますが、屋根に瓦を葺くようになります。平瓦と丸瓦は交互に重ねて葺いていました。軒先となる丸瓦を「軒丸瓦(のきまるがわら)」、平瓦を「軒平瓦(のきひらがわら)」といい、端に華麗な文様を施しました。また、この時代の建物の多くは掘立柱建物(地面を掘った穴に柱を建てる建物)でしたが、瓦を葺いた屋根は重くなるため、瓦葺建物の建物の多くは礎石建物でした。

熨斗瓦(のしかわら)



北新造院跡出土

鴟尾(しび)



北新造院跡出土

鬼瓦(おにがわ)



北新造院跡出土



入母屋造りの屋根(模式図)

軒丸瓦と丸瓦



出雲国分寺跡出土

軒平瓦と平瓦



出雲国分寺跡出土

平瓦と丸瓦を合わせた状態



出雲国分寺跡出土